

Q&A TA100

Q 本製品以外に準備する機器や消耗品は？

A ルミノメーター、ホモジナイザー、冷却遠心機、ボルテックスミキサー、測定用チューブ（測定用プレート）、マイクロピペッター、滅菌水（ATPフリー水）など。

Q ホモジネートバッファはキットについていますか？

A キットに同包されていません。 自家調整された滅菌水（ATPフリー水）もしくは 0.25M Sucrose 10mM HEPES-NaOH pH7.4をご使用ください。

Q 適するホモジナイズの方法は？

A 磨り潰しか刃で細断タイプを推奨します。 ビーズなど打撃式は細胞溶解を起こし、ATP分解酵素やATP合成酵素が影響して測定値が真の値から外れることがあります。

Q 心筋中のATP測定はできますか？

A 心筋用のホモジナイザーをご使用ください。 懸濁不足ではATP量値が低めにかつバラつきが生じます。 心房や心室中の血液を環流脱血して除いてください。 脱血不足の場合、高い測定値になり再現性が得られません。

Q 膵臓中のATP測定はできますか？

A 推奨できません。 膵臓は自己溶解が激しく、ホモジナイズでATP分解酵素やATP合成酵素が影響して、測定値が真の値から外れます。

Q 検体由来のATP分解酵素やATP合成酵素が影響して、測定値が真の値から外れることがありますか？

A ATP抽出試薬添加以降の操作では酵素阻害（抑制）されています。 またその前操作のホモジナイズでは、細胞は溶解しておらず影響を受けない事を確認済です。

Q サンプルの保管はできますか？

A 検体を凍結して保存してください。 ホモジナイズ以降では保存できません。

Q 発光試薬の調液後の保管条件は？ 保存期間は？

A 調液後は-80度保管で、速やかに消費してください。 試薬の経時劣化は、ATP標準液を用いてご確認ください。

Q 検量線は測定日毎にとる必要がありますか？

A 測定データを比較検証するために、日差の有無やその度合いの指標となるよう、ATP標準液で既知濃度に対する発光量を確認しておいてください。

Q ウェルプレートで測定できますか？

A 発光測定するまでの検体前処理にウェルプレートの使用は不向きです。 シングルチューブをご利用ください。 発光測定には白色（または黒色）ウェルプレートの使用は可能です。 ウェルプレート対応のルミノメーターをご使用の場合、測定ウエルの指定と動作プログラムを事前に確認設定してください。

Q 発光試薬に含まれるルシフェラーゼのオリジンは何でしょうか？ カルタヘナ法に準拠していますでしょうか？

A 北米産ホタル由来のルシフェラーゼを発光酵素として利用しています。 酵素とその製法はカルタヘナ法に準拠しています。